

国語の歩み 教科書で回顧

坂井・県教育博が企画展

スイミー、くじらぐも…人気作順位も



開幕した企画展「もう一度読みたい国語教科書」12日、坂井市の県教育博物館

坂井市の県教育博物館で12日、企画展「もう一度読みたい国語教科書」が始まった。教科として「国語」が誕生した120年前からの歩みを振り返る。 (伊豆倉知)

展示では、明治から現在までの「国語」の移り変わりを解説。国語科は1900年に誕生し、国定教科書が作られ、戦後の教科書は検定制度となり、教科書作成は民間に移ったことなどが分かる。1945年には、戦前の教科書の中の戦争や神道などに関する部分を墨で塗りつぶして使用したことも、実物を展示して紹介している。

書かれた感想も掲示し、スイミーについては「知恵と勇気を出して大きい魚を追い払っているところが好き」などとあった。

中学生、大人とも5位に入った「くじらぐも」については、巨大な挿絵のボードを設置。紙で作った先生と生徒の人形や雲に見立てた綿を貼って遊べるようにしている。

「ロングラン作品ベスト5」もあり、1位は昭和40年から今も掲載されている「ごんぎつね」「スーホの白い馬」の2作品。ごんぎつねについては原作も展示し、一部書き換えて掲載されている教科書の作品との違いを知ることができる。

初日は春江小の2年生86人が来館。教科書を手にとって音読したり、作品の挿絵を題材にした巨大パズルなど遊び心のあるコーナーを楽しんだ。